
堀 鐵藏メ～テレ社長定例記者会見

メ～テレ(名古屋テレビ放送)は、3月23日午後本社にて、堀社長の定例記者会見を行いました。

会見の要旨は、以下のとおりです。

【節目の一年】

当社では2005年度より、“地域密着”“系列貢献”“事業拡大”を3本柱とした「中長期経営目標」を策定し、5ヵ年にわたり、視聴率や売り上げ、放送外事業への取り組みなど具体的な目標の達成に向けて活動しています。

来年度は「中長期経営目標」の3年目、中間の年としていよいよ本格的にその成果を出していく年であり、また折しも開局45周年という二つの重要な節目の年であります。

企業としては、強靱な体力を身につけるため、昨年7月から「人員最適化とグループ組織再編プロジェクト」に取り組んでいます。これは「中長期経営目標」達成のため、本体および関連会社を一体とみなして、有効な連携について改めて構築するものです。また周年を記念した番組や事業、あるいは新規事業なども視聴者や地域の皆様楽しんでいただくため、積極的に打ち出していく所存です。

また現在、民放にとっては、CM投下の減少、デジタル設備への投資などの問題に加え、番組内容捏造によって失った信頼の回復、放送法改正や裁判員制度に対応した取材方法の問題など様々な課題を抱えています。当社は、関係各社や民放連と連携・協力しながらこの難局を乗り越えるべく努力していきたいと考えています。



【視聴率について】

3月18日までの今年度の視聴率状況は、以下の通りです。

〔全日〕	8.7%	(前年比+0.1)	2位
〔ゴールデン〕	13.0%	(前年比-0.8)	3位
〔プライム〕	14.0%	(前年比-0.7)	3位
〔プライム2〕	9.3%	(前年比±0)	1位

今年度終了までこのような状況が続きますと、

〔全日〕	8.7%	は、民放5局体制になった83年以降では自己最高視聴率
〔全日〕	2位	は、82年の1位以来24年ぶりの高順位
〔プライム2〕	9.3%	は、4年連続の1位

となります。このように全日視聴率が好調な要因のひとつとして、朝ワイド「どですか!」、夕ワイド「UP!」ほか自社制作番組が、これまで以上に親しまれてきたことが挙げられます。「UP!」は昨年12月に当社史上初めて、民放各局の夕ワイド中、月間平均視聴率1位を獲得しました。

[通期売り上げと決算見込み・来期売り上げ予測]

3月までのスポット売り上げの見込みは181億円余(前年比96%程度)です。名古屋広域4局のトータルが94%台ですので、平均よりは落ち込みを抑えた形となり、4局におけるシェアは23.3%となる見込みです。これは94年度の23.3%以来12年ぶりの高水準です。

決算見込みにつきましては、「4期ぶりの減収、2期連続の減益」の見込みです。これは、スポット売り上げが過去2年間にわたり最高を更新してきたこともあり、またマーケット動向の影響を受けて、前年を下回ったことが大きな要因です。

民放連や大手代理店などの予測よりも、2007年度の営業収入もさらに減少するとの様相で、当社にとりましても厳しい一年となりそうです。

[4月改編]

自社制作番組は現在のところそれぞれに順調に推移しています。これらをさらに強化することで、エリアの視聴者の支持をいただきながら、一方ネット進出も何うべく足固めをしていきます。

まもなく放送開始2年を迎える「ラブちえん」は、番組販売によって今春には全国17局にまで放送していただくこととなりました。またキー局であるテレビ朝日にもこれまで単発ではありますが放送していただき、上々の評価をいただいているものと考えております。

[デジタルへの取り組み]

デジタル受像機の普及については、1月末で1,790万台を超えたとの調査結果があります(JEITA調べ)。一方「アナログ放送の終了が2011年7月であること」に関して、昨年3月の総務省の調査で東海地区での認知度は36.9%でした。地上デジタル放送推進協会の事業計画では、これをそれぞれ来年度中に3,000万台、90%に上げていく目標を掲げており、当社もその実現に向けて様々な活動をしていく所存です。

視聴者の皆様により“デジタル”に親しんでいただくために、これまで「ウドちゃんの旅してゴメン」で固定受信とワンセグにおいて連動データ放送を実施するなどしていましたが、この4月から「BOMBER - E」でも出演アーティストの情報などを中心とした連動データ放送を実施する予定です。さらに「BOMBER - E」では当社のレギュラー番組初となる5.1ch サラウンド放送を実施、ライブの臨場感をこれまで以上にお伝えすることができるようになります。

[45周年記念番組・事業への取り組み]

「日中国交回復35周年記念 私たちは中国をどのように伝えてきたか」

1971年、名古屋で開かれた第31回世界卓球選手権大会、いわゆる“ピンポン外交”。これをきっかけに当社は、民放としてはじめて中国国内の取材を許され、10年、8回にわたり、西側として初めて人民解放軍の訓練風景など数々の貴重な映像をカメラに収めました。なぜ

メ~テレだけが許可されたのか。当時の取材団が伝えた中国とは何か。メ~テレにしかない貴重映像と当時関わった人々の証言を交えながら、過去と現在を重ね合わせ、私たちが何を伝えてきたかを検証します。

番組のナビゲーターは、「報道ステーション」コメンテーターでおなじみの朝日新聞編集委員の加藤千洋です。

5月下旬、ローカルでの放送予定です。

「恋の骨折り損」

1998年のスタート以来、蜷川幸雄の演出/監修により、話題作を送り続けている「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の第17弾として制作されるものです。

主役は、映画やドラマで活躍する人気俳優、先日まで当系列で放送していた「わるいやつら」での弁護士役が記憶に新しい北村一輝。演出の蜷川幸雄とは初顔合わせです。

[新規事業への取り組み]

オンラインショッピングサイト「メ~コレ」を4月に開設します。大手既存のサイトとは一線を画し、ローカル色・テーマ性をもって、当社制作の番組と連携をしながら商品を販売していきます。

「メ~コレ」の詳細につきましては、別途プレスリリースをご参照ください。

[番組内容捏造問題について]

民放にとって視聴者との信頼関係は極めて重要と考えています。日頃CSR(企業の社会的責任)については努力してきたつもりではありますが、今回の問題によりその信頼関係を一瞬にして失いかねません。

当社では、従来より、コンプライアンスの徹底に努めており、2003年3月にコンプライアンス推進室、2005年1月には法務部を新設、2005年10月に専従組織としてコンプライアンス室を設け、コンプライアンス体制の整備を進めてまいりました。

またよりよい番組づくりをするために、有識者による第三者機関として、2002年12月から「オンブズ6」を設置しています。また、放送倫理の徹底を図るための社内組織として、1993年3月から「放送の倫理と人権に関する委員会」を設置しています。その他、自社制作番組について、視聴率のみならず、番組の質で評価する「番組評価委員会」「メ~テレ特選委員会」を2004年4月から始め、視聴者の信頼と共感を得る番組制作をめざしています。

しかしこのような問題への対策は「これで十分」というものではなく、今回の一連の動きを契機に当社でも制作過程のしくみや問題について議論を重ねながら、「制作マニュアル」の制作・配布、社内研修会の充実などの対応をしていきます。

以上

<問い合わせ先> メ~テレ(名古屋テレビ放送)
名古屋市中区橋2-10-1
【社長室】 浅井賢二 今井 隆
TEL:052-322-7107/7108